

向陽中学校学校だより



創造陽躍



☆目指す学校像☆

誰もが安心して過ごせる学校

☆目指す生徒像☆

自分で考えて行動できる生徒

【学校教育目標】

自律・貢献・共生

所沢市立向陽中学校

所沢市向陽町2124 Tel04-2923-7201

令和4年度 第5号

7月4日（月）

あれもこれも

校長 沼田 芳行

新型コロナウイルス感染症に席卷されてから約2年半が経ちました。ウイルスはここまで態様を変えて生き伸び、まだまだ衰えるところを知りません。先々週あたりはだいぶ感染者の数が減ってきたようですが、先週はまた1000人単位で増えてきている状況があります。

この状況の中で、ウイルスとの付き合い方を人間が少しわかるようになり、「一定の感染対策を行えば、そんなに怖いものではないのではないか」等、いろいろな説が流れるようになりました。しかし、そのどれもが「公式見解」ではないため、「統一してこうしよう」ということはなかなかできない状況です。また、諸外国を見ても、対応はまちまちです。イベントに際して、マスクをしていない観客で満員の様子が映し出される国もあれば、わが国では、観客の上限は撤廃したものの、マスクの着用は義務付けられています。一方で暑さ対策として、熱中症との関連があり、特に子どもたちの夏季におけるマスク着用については、現在、国や埼玉県からは以下のように示されており、本校でもマスクを外せる場面では外していくよう子どもたちに話しています。



＜文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課＞ 「夏季における児童生徒のマスク着用について」R4.6.10 事務連絡
○地域の実情に応じて、「三つの密」の回避、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗い等の手指衛生」、「換気」等を徹底していく必要がある。

○マスク着用が不要な場面及び留意事項

- ・熱中症が命に関わる重要な問題であること。リーフレット等も活用しながら、その危険性について適切に指導すること。保護者等に対しても理解・協力を求めること。
- ・体育の授業、運動部活動中、登下校時は特に熱中症のリスクが高いことを想定。熱中症対策を優先し、生徒に対してマスクを外すように指導。
- ・できるだけ距離を空ける。近距離での会話を控える。

○様々な理由からマスクの着用を希望する生徒に対しても適切な配慮が必要。その場合にも熱中症対策を適切に講じることは必要不可欠。

＜埼玉県リーフレット＞ R4.6 埼玉県

「マスクの着脱、メリハリつけて！」～登下校や運動中はマスクを外しましょう

○登下校「マスクを外す」 人との距離を十分にとり、会話を控えて、マスクを外す

【屋外】・距離が確保できる。・距離が確保できないが、会話をほとんど行わない。

マスク不要 → 自然観察・写生活動など 屋外の教育活動 離れて行う運動や移動 密にならない外遊び

○体育の授業や運動部活動「マスクを外す」～運動中は外す 更衣の場面などではマスクの着用など

【屋内】・距離が確保できる&会話なし

マスク不要 → 個人で行う読書や調べたり考えたりする学習 目安2m以上

☆マスクを着用しない場合であっても、手洗い、「密」の回避等の基本的な感染対策を継続しましょう。

☆マスクは必ず外さなければいけないわけではありません。

☆マスクを外すことができない人や外したくない人がいることも忘れないことが大切です。

どちらがよいとかではなく、場に応じた判断や対応がこれまで以上に必要です。目指す生徒像である「自分で考え行動できる」はこれからとても大切になってくる力です。意見が違うからと簡単に対立するのではなく、よく対話して、時にはぶつかって、吟味し、物事を決断していく。あれもこれも大事にしていく度量を持つことが対策のひとつかもしれません。